



## ミュンヘン便り ～夏事情～

暑中お見舞い申し上げます。

日本ではもうすぐ祇園祭、そして天神祭、最も夏らしい時期ですね。浴衣、うちわ、花火、お囃子・・・お祭りの情景だけを思い浮かべれば日本情緒にうっとりしますが、現実の日本、特に関西での夏の生活は、ミュンヘンの夏に慣れてしまった身体にはこたえまです。夏の日本出張は日本の夏が過酷だということを私に再認識させました。

駅まで歩けばすでに汗びっしょり、電車に乗れば冷房の強風により汗で湿った頭がキンキンに冷やされ、電車から目的地までは再びサウナ状態となり、目的地に着いたころにはエネルギー消失状態、さらに室内では再度冷房の強風にあおられ続ける・・・。ミュンヘンから夏の日本出張にきた同僚Hと私は、二人とも冷房のせいで常にのどが痛い状態が続きました。さらにわたしは、古巣の事務所の西日がカンカンに当たる窓際の席で終日仕事をした日に、熱中症になるといういささか情けない有様。自分が日本にいたころにはこの



環境に順応できていたのに、夏のないドイツでの生活のせいで身体が退化してしまったという事実を認識しました。

ミュンヘンはドイツでは最も南に位置していますが、それでも日陰に設置された電子温度計が30度を超えるのを見たことはまだありません。ひと夏に一日か二日は大変暑い日があります。そんな日に、「今日こそ30度を超えているに違いない！」と内心思いながら温度計に目をやれば、29.6度とか、29.7度。それでもミュンヘン市民にとっては最高級の暑さ。もし幸運にも事務所が比較的新しい建物、たとえば築10年以下の建物に入っていれば、冷房設備があるかもしれません。近頃は温暖化現象で暑くなってきているので、新しいビルには冷房が付いている場合も多々あるのです。でもね、大半の建物には冷房がないのです。温暖化現象が始まる前は、それでも十分しのげる程度の暑さだったということですね。そんな職場では、窓を全開にして何とかしのぎ、場合によっては4時くらいになると「今日は暑くて仕事にならないから、〇〇湖に泳ぎに行くよ」などと言って帰ってしまう場合もあります（もちろんひと夏に一度か二度あるかないかです）。私は事務所の場所としては4か所を現在までに経験していますが、現在の場所を含めてそのうち2つには冷房があり、2つにはありませんでした。

ドイツでは、暖房もそうですが、冷房も風を出しません。冷房の場合、天井に埋め込まれている冷却パネルにより冷やされた空気が自重で室内上方から下方に落ちてくることに

より、屋内の空気が屋外に比べれば少々冷たい状態になります。建物内に設置した専用の配管により循環させた水を天井の冷却パネル内部に供給し、水冷で空気を冷やす仕組みです。暖房の場合も同様です。建物内を循環する温水を窓際に設置されている暖房器具（波形状の金属パネル）の内部に供給し、金属パネルから発生する暖気で室内を暖めるといふ具合です。そんな仕組みで十分に冷房や暖房ができるかどうか？そうですね、この種の冷房は風タイプの冷房に比べると即効性はないですが、長時間室内にいる場合は冷やさずすぎなくて快適です。ドイツ人のなかには、この種の冷房ですら冷えすぎると言って好まない人も多々います。暖房効果については不思議なことにふんわりしっかり温まり、とても快適です。暖房は個人宅も含めてどこでも完備されていますが、上述のドイツ式の冷房については、事務所用の建物ではときどき見かけるものの、個人の家にあるのは見たことがありません。冷風を出す形式の冷房は簡単に個人宅にも設置できるものの、そのタイプの冷房は一般にはあまり好まれないようです。

夏事情の違い、まだあります。日本では日差しが強烈なので太陽光線を直接浴びないようにするのが大切ですし、そもそもシミやそばかすがない透明感のある肌に対する憧れがありますね。一方、ドイツ、おそらくドイツだけでなくヨーロッパ全体として、日焼け願望が根底にあります。以前トスカーナの浜辺で、ミイラのごとく痩せて焦げたおばあさんが真夏の太陽の直下でまだなおわが身を焦がし続けているのを見て、びっくりしたことがあります。これは極端な例としても、小麦色に日焼けした肌は彼らにはリッチでゴージャスに見える一方、日焼けしていない肌は病的に見えます。彼らの肌質が日焼けしてもすぐに色が抜けてしまう性質のため、彼らにとっ

てはなかなか実現が難しい「こんがり色の肌」は憧れなのです。休暇から帰ってきた同僚に「いい色になったね！」と褒めれば、にっこり。なので、夏になると皆できる限り多くの肌面積を少しでも日焼けしようと心がけます。オープントップにできるコンバーティブルタイプの車は一斉に屋根を開けますし、プールに行ってもほとんど泳がずに水着姿で芝生の上でゴロゴロし、場合によっては日焼けサロンに行ったりもします。水着というのは泳ぐためだけのものではなく、全身に良い焼き色を付けるときに体を最小限覆うためのもの。女の人達は、タンクトップ一枚で事務所に行ってきます。日本ではシミ・そばかすを防いだり薄くしたりするのに必須の「ホワイトニング」化粧品も、もちろん不要。これはドイツにはありません。ヨーロッパの化粧品メーカーが日本で販売しているホワイトニング製品は全てアジア向けの商品だと、化粧品店の人から聞きました。夏事情一つとっても、グローバル市場に対する商品開発はなかなか難しいですね。

ところで今回の写真は夏のアルプス。ミュンヘンから1時間ほどのところにあるハイキングルートの一つです。日差しが岩盤に反射する夏のアルプス、日焼け対策は必須ですね。

## 筆者紹介

### 稲積 朋子（いなづみ ともこ）

1994年弁理士試験合格。2012年ヨーロッパ弁理士試験合格。現在、新樹グローバル・アイピー特許業務法人及びGIP Europe Corp.所属。

1997年、新樹グローバル・アイピー特許業務法人入所し、主に国内外の出願及び権利化業務を担当。2007年11月より、ミュンヘンの現地提携事務所に駐在。2009年1月、GIP Europe（GIPグループミュンヘンオフィス）設立。日本企業からのヨーロッパ出願・中間処理・異議申立・侵害品ウォッチングや、ヨーロッパ企業からの日本出願・中間処理業務を行う。

趣味は、山登り、ほっとすること、寝ること、健康づくりに励むこと。